

自然災害に備えよう

忘れてはならない平成16年台風災害



▲平成16年9月29日の台風21号によって、数多くの山々が崩落しました。（写真は中寺地区）

これから梅雨に入り、梅雨前線や台風による大雨が発生しやすい季節となります。平成16年に来襲した一連の台風災害では、がけ崩れ・地すべりによる大量の土石流や流木が発生し、尊い人命や財産が失われ、市民生活に多大な被害をもたらしました。過去の教訓を生かすためにも、日ごろからご家庭や地域などで防災について話し合い、いざという時に行動ができるよう、災害に備えておきましょう。

防災マップの活用を！



4月に各ご家庭へ配布しました「防災マップ」には、土砂災害などの危険箇所、風水害・地震などにおける避難場所、緊急時の連絡先等を記載しています。

もしものときに備えて、ご活用ください。

最新の気象情報を入力しよう

台風が近づいたり、雨が降り続いたりしたときは、最新の気象情報を収集しましょう。状況は刻々と変化するので、常にテレビやラジオ、インターネットなどで新しい情報を入手することが大切です。近年は、猛烈な雨が局地的に降る恐れがありますので、大雨警報や洪水警報が発表されたら、避難できるように準備をしておきましょう。

特に降水量が1時間に20mm以上、または降り始めてから100mm以上になった場合は、十分な注意が必要です。

●大雨注意報・洪水注意報とは

大雨や洪水による災害の恐れがある場合に、注意を呼びかけます。

●大雨警報・洪水警報とは

人命や財産に重大な影響を及ぼすような災害の恐れがある場合に、警戒を呼びかけます。警報本文中、「○○では過去数年間で最も土砂災害の危険性が高い」とある場合は、該当する地域での警戒を特に強めてください。

早め早めの避難を心がけよう

避難の遅れは生命の危機に直結します。「避難勧告」「避難指示」が出たときにはもちろんですが、それが出ていない段階でも危険を感じたら、早め早めに行動することが大切です。

避難にあたっては、高齢者、幼児、障害者などの災害時要援護者に配慮してください。